

女性教員の服装選択の意図について

— クラスタ分析による分類 —

○宮里萌望佳・井上弥

(広島大学大学院教育学研究科)

人の印象を形成する非言語的コミュニケーションの一つとして被服があげられる。神山(1999)は、非言語的コミュニケーションの一つに被服をあげており、「着装者を知る手がかり(p.45)」としている。また、永野・小嶋(1989)は、服装の特徴によって判断するパーソナリティ特性が異なることを明らかにしている。

庄山・浦川・江田(2004)は、シャツの色の違いによって印象が異なること、シャツを選ぶ側も自己呈示の印象操作として、意図をもってシャツの色を選んでいることを明らかにした。このように、服装には印象形成と自己呈示の2つの機能が考えられ、この2つの側面の関係について検討する必要がある。

教師の服装について、田村(2003)は、服装によって教師の評価が異なること、高旗(1996)は、教師が意図をもって服装を選んでいることを明らかにしている。しかし、印象形成と自己呈示の両面からは検討はされていない。

そこで本研究では、教師の服装選択の意図と児童生徒の教師に対する印象について検討するにあたり、教師の服装選択に対する意図カテゴリーの分類を統計的に分析を行うことを目的とする。

方法

対象 公立小学校女性教員(13名)

質問内容 場面を入学式や学級開きなどの子どもとの初対面の時とし、以下の質問をもとに半構造化インタビューを行った結果を用いる。①どのような服装を選ぶのか、②その服装を選ぶ意図は何か、③誰を意識して選んでいるのか。

分析方法 服装選びの意図は、データを分類するため、大学院生10名(男性5名、女性5名)が、

収集した意図の内容を類似度により群分けした。そのデータを逆数変換し、距離行列としたものを用いて、クラスタ分析(ward法)を行った。

結果と考察

3クラスタに分類した場合に、一定の解釈が可能であった(Figure1)。

Table1 各クラスタにおける意図の内容

クラスタ	意図の内容例
C 1	<ul style="list-style-type: none"> ・入学式の場の華やかさに合わせたい ・子どもに対して、祝福の想いを伝えたい ・「お祝いの時(入学式)は明るい色を着る」と自分では決めているから
C 2	<ul style="list-style-type: none"> ・同僚を引き立たせるため ・入学式に来ている人から派手に見られないように ・保護者に下品に見られないように
C 3	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者に、明るい先生に見られたい ・子どもに、優しい先生に見られたい ・子どもに、近寄りやすい先生に見られたい

Table 1より、C 1には、「入学式」という場を意識した意図、C 2には相手に自分のネガティブな印象を抱かせないような意図、C 3には相手に自分のポジティブな印象を抱かせ、初対面の場だけでなくその後の関係性にも考慮するような意図がみられた。

意図の基準には、場面、相手にネガティブな印象を抱かせない、またはその後の関係性を考慮し、ポジティブな印象を抱かせようとするような内容がみられ、小学校の女性教員は、その場の雰囲気に合わせて、服装を非言語コミュニケーションの一つととらえ、相手に対して個人のパーソナリティや理想の教師像などを伝えようとしている可能性が考えられる。

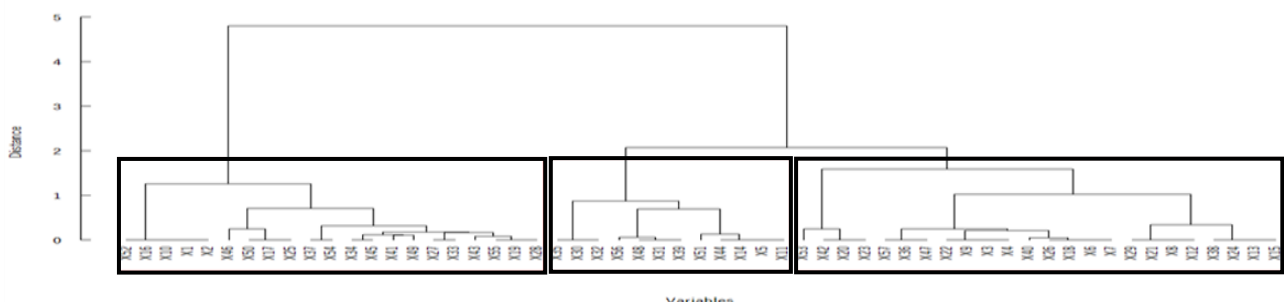


Figure1 デンドログラム